

# 社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会 平成 28 年度事業報告

## I 本部事業

### 1 施設運営

「はりま自立の家」「はんしん自立の家」「しそう自立の家」「かるがも園」の4箇所を拠点とし、施設の運営と地域の福祉活動を行った。

27年度に大きな赤字を出した「しそう自立の家」では、入居者と利用者の定員充足と高齢化や障害の重度化に合わせたスタッフの配置の見直しを行い、外部で行っていた就労継続支援B型事業「チェシャーパーカリー」と小規模作業所「チェシャージュップ」を閉鎖し、「しそう自立の家」の中でパンの製造を行うこととし、また木工活動の「チェシャーズ・ファクトリー」も木工指導者に譲渡し、全体の運営を見直した。

### 2 財務全般

施設運営は厳しい年であったが、法人本部は大口の寄付もあり、剰余金を残すことが出来た。「はりま自立の家」「はんしん自立の家」「かるがも園」も剰余金を残すことができ、「はんしん自立の家」は将来に備えて修繕積立を行った。

「しそう自立の家」は運営の改善を図り、赤字を167万円に縮小することが出来た。

### 3 施設・設備整備

各施設とも老朽化に伴う修理・修繕の箇所が多かった。「はりま自立の家」はエレベーター改修工事に着手した。

### 4 理事会・評議員会

各会とも年4回開催した。施設運営改善をはかるため小委員会を開催した。社会福祉法人制度改革により、従来の組織を改定する準備を行った。法人設立時からご尽力いただいた深川純一理事が退任されまた西浦道雄理事も健康上の理由で退任された。

### 5 監事監査

平成28年5月18日（水）に実施

### 6 海外チェシャージャーホームとの交流及び国際交流

① ラティテュード・ボランティアの受け入れ6名

② 第13回東 アジア・太平洋地区チェシャージャーホーム年次総会（BGM）

インドネシア ウイズマ チェシャージャーホーム 見学研修

日時 平成28年10月7日（金）～10日（月）

場所       インドネシア ジャカルタ、  
              インドネシア・ウイズマ チェシャーホーム他

参加者     「はりま自立の家」入居者1人 スタッフ1人  
              「はんしん自立の家」入居者1人 スタッフ1人  
              「かるがも園」スタッフ1人 石田理事  
              参加チェシャーホーム  
              香港、インドネシア、マレーシア、タイ、シンガポール  
              パプアニューギニア、フィリピン、中国、日本、イギリス

## 7 研修及び施設連絡会議、その他活動

福祉の夢を語る会 6月9日  
ケア・マネージメント研修会 4月17日 11月5日  
成年後見制度勉強会 11月12日  
中堅職員研修  
新入職員辞令交付式ならびに合同宿泊研修  
施設連絡会議 法人理事長、理事、全施設長と幹部職員が各施設で当面する問題を定期的に協議し、その後施設を見学し、自主点検を行った。14回

## 8 調査研究事業

三田土地整備・利用  
寄贈を受けた三田の土地を三田市シルバー人材センターに委託して毎週、整備し季節ごとに「さんだ子ども発達支援センター」はじめ「自立の家」の入居者や地域の人々に利用していただいた。  
法人・施設経営研究  
中納社会保険労務管理事務所に法人職員の給与改定業務を委託した。

## 9 社会福祉法人制度改革

社会福祉法人制度を大きく改革する法案が平成28年3月31日に成立し、公布され、新たな制度にあわせる手続きを進めました。  
定款変更 平成29年1月31日 兵庫県より認可  
評議員選任解任委員会開催及び新評議員の選任 平成29年3月29日

## II 「はりま自立の家」

平成 28 年度の状況

### (A) 障害者支援施設 施設入所支援・生活介護

定員（現員） 施設入所支援 50 人（48 人） 平成 29 年 3 月 31 日現在  
生活介護 60 人（登録 76 人）平成 29 年 3 月 31 日現在

- ・入居者 1 名が介護付き有料老人ホームへ移られた。生活介護と短期入所を利用しながら入居を希望されていた方 2 名が入居され、48 名になった。
- ・入院される方が増え、入院日数も長くなっている。
- ・国・県の補助金を受け 110 番非常通報装置と屋外監視カメラの増設を行い、防犯体制を強化した。

### (B) 短期入所事業・日中ショートステイ事業 定員 各 4 人

短期入所 利用実人員 障害者 27 人 障害児 3 人  
利用延べ日数 1,281 日

日中ショートステイ 契約市町 宍粟市  
利用実人員 障害者 6 人 障害児 12 人  
利用延べ日数 468 日

- ・短期入所の利用者は固定化している。利用率は上がってきており、一日平均 3.5 名の利用者があった。
- ・日中一時支援事業の利用者もほぼ固定化しているが、定期的に利用される方が 1 増えた。

### (C) 居宅介護・重度訪問介護事業

契約者 身体障害者 10 人

サービス内容 居宅介護 5 人 重度訪問介護 5 人 移動支援 4 人

年間延べ派遣時間 居宅介護 4,308 時間 重度訪問介護 10,708 時間

移動支援 110 時間

- ・市川町出身の利用者が重度訪問介護サービスより居宅介護サービスに変更になったため、市川町地域生活支援事業の移動支援の指定を受け、外出の支援ができるようにした。

### (D) 障害児通所支援事業「はりま自立の家児童デイサービス」

#### ① 児童発達支援事業（就学前児）

療育訓練登録人数 19 人 年間延べ訓練回数 356 回

宍粟市委託児童 9 人 年間延べ訓練回数 24 回

#### ② 放課後等デイサービス（就学児）

療育訓練登録人数	19人	年間延べ訓練回数	310回
デイサービス登録人数	12人	年間延べ利用回数	671回
(内、訓練との併用者 5人)			

- ・一宮町内に療育訓練を行う障害児通所支援事業所が出来、併用して利用される方が多くなったが、利用人数、訓練回数に減少はなかった。
- ・委託訓練士が11月より1名欠員になったため、訓練回数が減った。

#### (E)福祉ホーム「ローズハウスはりま」

定員（現員） 入所 10人（10人）

- ・小規模作業所「チェシャーショップ」が閉鎖になったため、11月より2名の方がはりま自立の家の生活介護を利用されるようになり、1名の方が就労支援B型事業所に通所されるようになった。

### III 「はんしん自立の家」

平成28年度の状況

#### (A) 障害者支援施設 施設入所支援・生活介護

定員（現員）	施設入所支援	50名（51名）
	生活介護	60名（登録51名）

- ・年度上半期は入院者が多かったが、下半期は健康状態もよく98パーセントの利用率であった。
- ・入居者の重度化・高齢化は顕著になった。相談支援事業所と協力し、医療の整った施設や高齢者施設への移行の可能性を探り始めた。
- ・人材確保が困難になり、外国人留学生の採用・育成を積極的にすすめてきた。
- ・10年間実施した車椅子登山を終了させた。（日本山岳協会・植村直己冒険館から表彰）
- ・公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団から助成金を得て車両を購入した。宝塚市社会福祉協議会・兵庫県共同募金会配分金を得てコンサート等を実施した。

#### (B) 短期入所事業・日中一時支援事業 定員 各4人

短期入所	利用実人員	障害者 27人	障害児 3人
	利用延べ日数	1,917日	実人員 43人
日中一時支援事業	契約市町	宝塚市	
	利用実人員	障害児 1人	
	利用延べ日数	25日	

- ・阪神七市一町ショートステイ事業として、7,156,000円の負担金を得た。

(C)居宅介護・重度訪問介護事業

契約者 身体障害者 3人

サービス内容 居宅介護 1人 重度訪問介護 2人

年間延べ派遣時間 居宅介護 3時間 重度訪問介護 204時間

- ・職員の確保がたいへん困難なため、居宅介護・訪問介護については最低限度の派遣とした。

(D) 小規模作業所「ティールーム・トラファルガースクウェア」

定員5人以上 (6人)

- ・宝塚市社会福祉協議会・兵庫県共同募金会配分金を得て備品を購入した。

## IV 「しそう自立の家」

平成 28 年度の状況

(A)障害者支援施設 施設入所支援・生活介護

定員 (現員) 施設入所支援 50名 (49名)

生活介護 60名 (登録69名)

- ・27年度に出した赤字のため、施設運営全体の見直しを行うため、職員配置を整理し、就労継続支援B型「チェシャーパーカリー」、小規模作業所「チェシャージュップ」を10月末に閉鎖し、パーカリーの部門は、しそう自立の家の生活介護に移行した。木工活動の「チェシャーズファクトリー」を28年度末で終了した。
- ・28年10月に医療的ケアが必要になった方が1名退所された。28年9月に2名、29年3月に2名の方が入所され、49名になった。1名の方が2月下旬から入院、1名の方が3月末から自宅療養されている。
- ・28年度も入居者1名の欠員があり、赤字の解消は出来なかった。

(B)短期入所事業・日中ショートステイ事業 定員 各4名

・短期入所 利用実人員 14名

利用延べ日数602日

- ・日中ショートステイ事業 契約市町 宍粟市  
利用実人員 14名  
利用延べ日数 114日
- ・土日は定期的な利用があったが、平日の利用には空床があった。
- ・日中一時支援事業は、主に他の事業所を利用されている方が土日の利用をされた。

(C) 就労継続支援B型事業「チェシャーベーカリー」

定員 10名 (最終利用者数 7名)

- ・10月31日で閉鎖した。4名の方がしそ自立の家の生活介護に移られた。

(D) 小規模作業所「チェシャーショップ」

定員 5名以上 (最終利用者数 5名)

- ・10月31日で閉鎖した。ローズハウスに入所されている方の利用が全てだった。

(E) 共同生活援助事業 グループホーム「楽」

定員 (現員) 7名 (7名)

- ・1名の方が11月下旬より、手術のため約1ヶ月の入院をされた。退院後は体調が整うまで、しそ自立の家の短期入所を利用された。

## V さんだ子ども発達支援センター「かるがも園」

(A) 児童発達支援センター「かるがも園」

定員 (現員) : 30名 (30名) 年間延べ利用人数 5,237人

- ・新しい療育活動として、タクティールタッチ、臨床美術を取り入れた。外部講師に来ていただき、保護者への研修も行った。
- ・幼稚園・保育所に進むお子さまが多く、進路先の園との連携が必要とされた。
- ・園庭体育倉庫横に、屋根付きの遊具置場を設置した。

(B) 児童発達支援事業「すくすく教室」

利用定員 (現員) : 1日10名 (59名登録) 年間利用延べ人数 2,110人

- ・利用希望が増えたため、クラス数と職員を増やして対応した。
- ・低年齢・軽度障害のお子さまが増えて、保護者支援の必要性も高まっている。

- (C) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業「さんだ子ども発達支援サービス」  
相談支援事業 年間相談件数 599件  
障害児相談支援事業・特定相談支援事業  
サービス等利用計画作成・モニタリング 388件
- ・さまざまなサービスを組み合わせて利用計画を作成するために、地域の事業所や関係機関との連携が必要とされた。
  - ・障害のある子どもが通う事業所の連絡会を開き、情報交換を行った。
- (D) 保育所等訪問支援事業「さんだ子ども訪問支援サービス」  
保育所等訪問支援件数 7件 療育講座4回実施 延べ受講者数 189名
- ・幼稚園・認定こども園・保育所等を訪問して事業内容の説明を行い、子どもの支援と職員への助言指導を行った。
  - ・夏休みに、教諭・保育士・指導員等を対象とした療育講座を開いた。
- (E) 「子ども発達支援センター」の運営  
法外施設「子ども発達支援センター」の運営・公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団と協力し、療育事業の実施、療育研修会・保護者研修会の開催、職員のための研修等を行った。